

# 管路施設調査工仕様書

## 第1章 総則

### 1. 適用範囲

- (1) 本仕様書は五所川原市（以下「発注者」という）が管理する下水道管路施設の調査工に適用する。
- (2) 図面及び特記仕様書に記載された事項は、本仕様書を優先する。
- (3) 本仕様書、特記仕様書及び図面（以下、「設計図書」という。）に疑義が生じた場合は、発注者と受注者との協議により決定する。

### 2. 成果の所有等

調査に伴って得られた資料及び成果は発注者の所有とする。また、調査の成果等は、発注者の承諾なしに公表しないこと。

### 3. 提出書類

- (1) 受注者は、契約締結後、次の書類を提出し、承諾を受けた上、調査に着手すること。  
① 着手届  
② 現場代理人及び主任技術者届、経歴書及び資格証明書  
③ 工程表  
④ 職務分担表  
⑤ 緊急連絡届  
⑥ 調査計画書  
⑦ 酸素欠乏症危険作業主任者届  
(酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了証の写しを添付のこと。)  
⑧ その他発注者が指示する関係書類
- (2) 提出した書類の内容を変更する必要がある時は、ただちに変更届を提出すること。
- (3) 受注者は、着手日からしゅん工日までの期間中の毎月末、調査出来高報告書を監督員に提出すること。
- (4) 前記各項のほか、監督員が指定する書類を指定期日までに提出すること。

### 4. 官公署への手続き

受注者は、契約締結後、すみやかに関係官公署等に、調査に必要な道路使用、交通の制限等の届出、または、許可申請を行い、その許可等を受けること。

### 5. 現場体制

- (1) 受注者は、契約締結後、すみやかに代理人、及び調査の技術並びに経験を有する主任技術者を定めるとともに、現場に主任技術者を常駐させて、所定の業務に従事させること。

- (2) 管路施設内の調査を行う場合は、酸素欠乏危険作業主任者を定め、現場に常駐させ、所定の業務に従事させること。
- (3) 受注者は、適正な調査の進捗を図るとともに、そのために十分な数の作業員を配置すること。

#### 6. 下請負人の届出

- (1) 受注者は、調査の一部を下請負とする場合で、発注者が下請負人の届出の提出を求めた時は、着手に先立ち、下請負人使用状況届により、下請負の名称、下請負の種類、期間、範囲等及び下請負人に対する指導方法等について、届け出ること。  
作業期間中に、下請負人を変更する場合も同様である。
- (2) 調査の実施にあたって、著しく不適當であると認められる下請負人は、交代を命ずることがある。この場合、受注者は、ただちに必要な措置を講じること。

#### 7. 地先住民等との協調

- (1) 受注者は、調査を実施するにあたり、必要に応じて地先住民等に調査内容を説明し、理解と協力を得ること。
- (2) 受注者は、地先住民等からの要望、もしくは地先住民等と交渉があった時は、遅滞なく監督員に申し出て、対応について協議すること。地先住民等に対しては、誠意を持って対応し、その結果をすみやかに報告すること。
- (3) 受注者は、いかなる理由があっても、地先住民等から報酬、または手数料等を受け取ってはならない。なお、下請負人及び使用人等についても、上記の行為の内容については、十分監督指導すること。
- (4) 使用人等が前項の行為を行った時は、受注者がその責任を負うこと。

#### 8. 損害賠償及び補償

- (1) 受注者は、下水道施設に損害を与えたときは、ただちに監督員に報告し、対応について協議するとともに、すみやかに現状復旧すること。
- (2) 受注者は、調査にあたり、万一、注意義務を怠ったことにより、第三者に損害を与えた時は、その復旧及び賠償に全責任を負うこと。

#### 9. 工程管理

- (1) 受注者は、あらかじめ提出した工程表に従い、工程管理を適正に行うこと。
- (2) 予定の工程表と、実績に差が生じた場合は、必要な措置を講じて、調査の円滑な進捗を図ること。
- (3) 受注者は、毎月末、調査出来高報告書により、調査の進捗状況を監督員に報告すること。
- (4) 日程の都合上、履行期間に含まれていない日（祝日、休日等）に調査を行う必要がある場合は、あらかじめ調査内容及び調査時間等について、監督員の承諾を得ること。

#### 10. 作業記録写真

受注者は、次の各項に従って、調査記録写真を撮影し、作業完了時には、工種ごとに工程順

に編集したものを、調査記録写真帳に整理し、完了届に添付して監督員に提出すること。

- (1) 撮影は、安全管理の状況、テレビカメラ（以下、「TVカメラ」という。）など使用機械または潜行目視による作業状況、酸素及び硫化水素濃度等の測定状況、管内洗浄状況のほか、監督員が指示する内容について行うこと。
- (2) 写真には、件名、撮影場所、撮影対象及び受注者名を明記した黒板を入れて撮影すること。
- (3) 一枚の写真では、作業状況が明らかにならない場合は、貼り合わせること。
- (4) 写真は、原則としてカラー撮影とし、その大きさはサービス版とすること。

## 第2章 安全管理

### 1. 一般事項

- (1) 受注者は、公衆公害、労働災害及び物件損害等の未然防止に努め、労働安全衛生法、酸素欠乏症等防止規則、並びに建設工事公衆災害防止対策要綱等の定めるところに従い、その防止に必要な措置を十分講ずること。
- (2) 調査中は、気象情報に十分に注意を払い、豪雨、出水、地震等が発生した場合は、ただちに対処できるような対策を講じておくこと。
- (3) 事故防止を図るため、安全管理については、調査計画書に明示し、受注者の責任において実施すること。

### 2. 安全教育

- (1) 受注者は、調査に従事する者に対して、定期的に当該作業に関する安全教育を行い、調査員の安全意識の向上を図ること。
- (2) 受注者は、労働省令で定める酸素欠乏危険作業に係る業務について、特別な教育を行うこと。

### 3. 労働災害防止

- (1) 現場の調査環境は、常に良好な状態を保ち、機械器具その他の設備は常時点検して、調査に従事する者の安全を図ること。
- (2) マンホール、管きょ等に入出入りし、またはこれらの内部で作業・調査を行う場合は、労働省令で定める酸素欠乏危険作業主任者の指示に従い、酸素欠乏空気、有毒ガス等の有無を調査開始前と調査中は常時調査し、換気等事故防止に必要な措置を講じるとともに、呼吸用保護具等を常備すること。  
なお、酸素及び硫化水素の測定結果は、記録、保存し、監督員が提示を求めた場合は、その指示に従うこと。
- (3) 調査中、酸素欠乏空気や有毒ガス等が発生した場合は、ただちに必要な措置を講じるとともに、監督員及び他関係機関に緊急連絡を行い、その指示により、適切な措置を講ずること。
- (4) 資格を必要とする諸機械を取り扱う場合は、必ず有資格者が従事することとし、かつ、

交通誘導員を配置すること。

#### 4. 公衆災害防止

- (1) 調査中は、常時、調査現場周辺の居住者及び通行人の安全、並びに交通等に配慮し、流水等の円滑な処理に努め、現場の保安対策を十分講ずること。
- (2) 調査現場には、下水道管路内調査中であることを標識、ゼッケン及びビブス等により明示し、夜間には十分な照明及び保安灯を施し、通行人、車両交通等の安全の確保に努めること。
- (3) 作業・調査区域内には、交通誘導員を配置し、車両及び歩行者の通行の誘導、並びに整理を行うこと
- (4) 作業・調査に伴う交通規制及び保安対策は、本仕様書に定めるところによるほか、関係官公署等の指示に従い、適切に行うこと。
- (5) 前項の対策に関する具体的事項については、関係機関と十分協議して定め、協議結果を監督員に提出すること。

#### 5. その他

- (1) 受注者は、作業・調査にあたって、下水道管路またはガス管等の付近では、絶対に裸火を使用しないこと。
- (2) 万一、事故が発生した時は、緊急連絡体制に従い、ただちに監督員及び関係官公署等に報告するとともに、すみやかに必要な措置を講ずること。
- (3) 前項の通報後、受注者は事故の原因、経過及び被害内容の調査の上、その結果を書面により、ただちに発注者に届け出ること。

### 第3章 調査工

#### 1. 一般事項

- (1) 受注者は、調査計画書に調査箇所、調査順序等を定め、事前に監督員に報告した上で作業に着手すること。
- (2) 調査にあたっては、管口を傷つけないようにガイドローラ等を使用するなど、必要な保護措置を講じ、下水道施設に損傷を与えないよう十分留意すること。
- (3) 調査にあたり、仮締切を必要とする場合は、監督員の承諾を得ること。この仮締切は、上流に溢水が起こらない構造で、かつ、調査中の安全が確保されるものとする。
- (4) 受注者は、調査にあたり、騒音規制法、振動規制法等の公害防止関係法令に定める規則基準を遵守するために必要な措置を講ずること。
- (5) 監督員が事故防止上危険と判断した場合は、調査の一時中止を命ずることがある。
- (6) 調査にあたり、道路その他の工作物を搬出土砂等で汚損させないこと。万一、汚損させた時は、調査終了の都度、洗浄・清掃すること。
- (7) 調査終了後は、すみやかに使用機器、仮設物等を搬出し、調査場所の清掃に努めること。

## 2. 調査工

### (1) 調査計画書

受注者は、調査にあたり、次の事項を記載した調査計画書を提出し、承諾を受けた上、着手すること。

- ① 調査概要
- ② 現場組織（職務分担、緊急連絡体制等）
- ③ 調査計画（TVカメラ、ビデオカメラ装置等の使用機器、調査方法、実施工程等）
- ④ 安全計画（保安対策、道路交通の処理方法、管きょ内と地上との連絡方法、酸素欠乏空気・有毒ガス対策等）
- ⑤ その他

監督員の指示する事項

### (2) 調査機材

調査に使用する機材は、常に点検し、整備しておくこと。

### (3) 調査時間

調査にあたっては道路使用許可条件を厳守すること。

### —(4)— TVカメラによる調査（内径150～800mm未満）—

- ① 調査にあたっては、あらかじめ、当該調査箇所を洗浄し調査の精度を高めること。なお、洗浄に高圧洗浄車を使用する場合は、その洗浄水は、監督員との協議により調達先を選定すること。
- ② 本管の調査は、原則として上流から下流に向け、TVカメラを移動させながら行うこと。
- ③ 本管の調査にあたっては、管種、管径、管の破損、継手部の不良、クラック、取付け管口、管のたるみ・蛇行、取付け管の突き出し、油脂の付着、木の根の侵入、侵入水等について異常の程度を確認し、全区間について撮影（カラー）し、DVD等に収録すること。  
異常箇所、取付け管口等の必要箇所については、側視撮影（カラー）した上で、鮮明な画像をDVD等に収録すること。
- ④ 本管内の異常箇所の位置表示は上流側マンホール中心からの距離とし、正確に測定すること。
- ⑤ 取付け管部の異常箇所の位置表示は、上流側マンホール中心からの距離とする。
- ⑥ 管きょ内に異常が発見された場合は、異常箇所を拡大した画像（カラー）を保存するものとする。これらの撮影内容及び方法の変更は、事前に監督員と協議し、承諾を得なければならない。

### —(5)— 目視による調査—

#### ① マンホール目視調査—

マンホール内に調査員が入り、マンホール内の側塊や側壁のクラックやズレ、侵入水足掛金具及びコンクリートの腐食、足掛金具の欠損本数、土砂等の堆積、管きょの布設状況、蓋の摩耗度、蓋のがたつき・蓋違い、副管の状況等について、異常の程度を確認し、写真撮影（カラー）を行うものとする。

~~—写真撮影（カラー）は、調査年月日、調査場所、異常内容等を明記した黒板を入れて行い、マンホール1箇所当たり3枚以上を標準とする。—~~

(6) 異常時の処理

調査作業の続行が困難となったときは、ただちに監督員に報告し、指示を受けること。

3. 報告書

(1) 調査結果は、調査報告書記載要綱により、報告書を作成し、提出すること。

(2) 調査結果をテレビモニターからDVD等に収録する場合は、指定の一般用DVD等に収録すること。

なお、提出するDVD等及び写真には、件名、地名、路線番号、継手番号、管径、並びに距離等を表示すること。

(3) 調査結果の判定基準については、別紙1～3に基づき調査総括表に記載する。

(4) 提出する成果品は次のとおりとする。

- ① 報告書
- ② 不良箇所写真帳
- ③ DVD等
- ④ その他監督員の指示するもの

第4章 その他

1. 調査の完了

調査を完了し、所定の書類が提出された後、検査員の検査をもって完了する。

2. 検査

(1) 受注者は、中間検査及び完了検査に立会うこと。

(2) 受注者は、検査のために必要な資料（日報、写真、完了図書等）を検査員の指示に従い提出すること。

3. その他

(1) 調査箇所において、下水道施設に破損、不同沈下、腐食等の異常を発見した場合は、すみやかに監督員に報告すること。

(2) その他特に定めのない事項については、すみやかに監督員と協議し、処理すること。